

# 令和5年度小樽幼稚園評価

令和6年3月

## 【経営目標】 自ら考える力を育み、共に育ちあう「笑顔いっぱいの幼稚園」をつくる

### (1) 心豊かでたくましい子どもの育成

- ・「まことの保育」を推進する。 ・子どもの自立を促す。 ・子どもの主体的な活動を展開できる保育を推進する。
- ・基本的な生活習慣や生活リズムの定着を図る。 ・つながりのある活動を展開する。

### (2) 安全・安心を基盤とした園生活の充実

- ・教育環境の整備。 ・防災、防犯体制の充実。 ・健康・安全面に配慮した指導の充実。

### (3) 保護者や地域社会との連携の強化

- ・地域の環境や人材を活かした教育の推進。 ・情報発信、情報交換の積極的な推進。
- ・幼稚園教育で大切にしていることを伝え、家庭の協力を求める。 ・幼稚園評価による保護者や地域の声を真摯に受け止め、教育の充実を図る。

### (4) 意欲的に学び、相互啓発する教職員の育成

- ・教師の指導力の向上。 ・教育課題を共有し、互いに協力し合える関係をつくる ・時間外勤務の縮減に取り組み、心身の健康に努める
- ・幼児期の終わりまでに育て欲しい「10の姿」につながる指導を積み重ねる。

◆評価方法 1学期自己評価（7月20日実施）、2学期自己評価（12月20日実施）、保護者評価（12月8日～12月19日で実施）を基に評価（各評価でAが4点、Bが3点、Cが2点、Dが1点とし平均を出している。）

◆評価基準

【A 十分達成 3.25以上 B おおむね達成 3.25未満～2.5以上 C 取り組まれているが不十分 2.5未満～1.75以上 D 改善を要する 1.75未満】

中期経営目標	短期経営目標	努力指標	評価結果	成果・課題
(1) 心豊かでたくましい子どもの育成	・「まことの保育」の推進	・指導者が、めざす子どもの姿を理解し、子どもに伝えることができるようにする。	A	・まことの保育を意識し、命を尊び、互いに尊重することを子どもに伝える姿が見られている。
	・子どもの自立を促す	・子どもの自立を促し、自分でできたという達成感を味わえるようにする。	A	・職員の共通理解が進み、子どもの自立を促す指導が多く見られている。
	・基本的な生活習慣や生活リズムの定着を図る	・幼稚園生活のリズムの定着に努める	A	・指導を繰り返し、発達段階に応じた生活リズムの定着を図っている。 ・落ち着いて園生活が出来てきている。
		・「あいさつ、あんぜん、あとしまつ」の3つがしっかり身に付くよう指導する。	A	
	・主体的活動を展開できる保育の推進	・「与えて、させて、急がせる」指導から、「聞いて、助けて、見守る」指導へ転換する。	A	・なかよしはん活動を通し、子どもの成長を実感できた。
	・つながりのある活動を展開する	・1年間のテーマを決め、創造性、発展性、連続性のある活動をする。	B	・創造的で子どもたちがワクワクするような活動が多く見られるようになってきた。
(2) 安全・安心を基盤とした園生活	・教育環境の整備	・子どもが「おもしろい」「やってみたい」と思うような環境をつくる。	B	・教師がやってみたいと思った活動ができる職場になってきた。 ・保育室の環境整備については、さらに意識化が必要。
		・保育室の清潔で安全な環境を維持する。	B	
	・防災、防犯体制の充実	・避難訓練や安全指導を確実に実施する。	A	・避難訓練はしっかりできるようになった。 ・教師の危機意識の高まりがみられている。 ・危機管理マニュアルを全体で確認し、いざという時に備えている。
		・玄関オートロックの徹底	A	
		・危機管理マニュアルに基づく対応ができる。	A	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・安全面に配慮した指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検表に基づく安全点検の実施を毎日行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の点検がマンネリ化しないようにしていく。</li> <li>園児の体調面には細心の注意を払っており、保護者との連携もできている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>登園時の視診の徹底、活動中の園児の体調面に配慮する。</li> </ul>	A	
(3) 保護者や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の環境や人材を活かした教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や施設連携し、教育活動の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>吹きガラス、地引網、フェリー船内見学、運河クルーズ等地域と連携し活動している。</li> <li>保護者とのコミュニケーションは十分とれている。</li> <li>配布物を忘れることが見られた。</li> <li>事故が発生した場合等、保護者への連絡は概ね迅速にできていた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と情報交換を積極的に行い意思疎通を図る。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への連絡や配布物は忘れることなく行う。</li> </ul>	B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>事故や問題が起きた場合、保護者への説明や対応を迅速に行う。</li> </ul>	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信、情報交換、情報活用の積極的な推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園や子どもたちの様子を積極的に発信する。</li> </ul>	A	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長課題を家庭と共有する。</li> </ul>	A	
(4) 意欲的に学び相互啓発する教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門知識や技能の習得に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会に積極的に参加し、専門的知識や技能の習得に努めている。</li> <li>保育者がやりたいと思う活動が実現できている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>創意工夫ある教育活動を展開する。</li> </ul>	A	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働体制の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報・連・相を徹底する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告、連絡、相談がしっかり行われるようになってきた。</li> <li>教師間の打ち合わせが活発に行われるようになった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教師間の打ち合わせをしっかりと行う。</li> </ul>	A	

		・同僚に気軽に相談できる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士で声を掛け合う姿が多く見られるようになった。</li> <li>・創意工夫しようとする姿勢が見られている。</li> </ul>
		・新たな発想で教育活動を工夫する。	A	
	・時間外勤務の縮減	・18時までには退勤する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示退勤は守られている。</li> <li>・子ども園への移行に向け、教育活動の見直しを進めている。</li> </ul>
		・教育活動を見直し、保育者の負担軽減を図る。	B	
	・「10の姿」を考慮した指導	・「10の姿」を指導の際に考慮し、発達段階に応じた指導を積み重ねる。	B	・小学校への進学を意識した指導が行われてきてい

## 総合評価

- ・仮園舎の整備に、職員はもとより関係機関の皆さまにしっかり取り組んでいただいたおかげで、保護者から、「仮園舎の生活に不安があったが、何の問題もなく楽しそうに過ごしている様子を見て安心した。」との声が多数寄せられている。今後も仮園舎で子どもたちが安全で楽しく過ごせるよう気を抜かず全職員で努めていきたいと思う。
- ・全ての評価項目で、概ね達成以上になっている。特に令和5年度は、「なかよしはん遊び」（異年齢による活動）を計画的に取り入れたことにより、保育者の意識を高め、子どもの主体的な活動を引き出し成長を促すことができた。今後は、全ての活動において教育活動のねらいを明確にし、段階的、継続的に取り組んでいきたい。
- ・共通の目標に向かい、保育者同士が互いに支え合い高め合っていく協働的な関係（同僚性）を高めていきたい。
- ・「まことの保育」をさらに推進し、子どもたちがかけがえのない一人の人間として大切にされ、安心して自分の力を発揮できる幼稚園を目指していきたい。

## 幼稚園関係者評価委員会からの意見

自己評価の回答数や幼稚園評価を実施している年数について質問があったが、評価方法等について意見は無かった。